

| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|--|---|--|--|---|---|---|---|---|--------------------------------------|---|-----------------|
| 曆文 | 清吉 マスミ きいち | 美枝子 | | 山菜 美枝子 月を 洋 | | 音思 ほのる | 光雲2 みづる 洋 いちい | 霜里 凡士 修 月を ほのる 由美子 | | | 風子 | 霜里 稀香 ひろし 允孝 音思 俳翁 京子 | | 山菜 風舎 いちい |
| 飛花落花のこり日計る砂時計 <small>まだまだですよ、自分は五年日記を買いましたよ。</small> | 摘草に染まりし指の灰汁消えず <small>指先の灰汁の跡に焦点を絞って見事。春になって花々が咲き乱れ、わくわくするが、雑草たちもこの時とばかり春を謳歌する。草を摘み取った後の指に残る灰汁。まあそれも許せるか。ありのままを素直に詠まれて好感がもてます。</small> | 出店の灯ともり艶増す桜かな <small>昼間の桜とは違って夜桜は艶っぽくなりますよね。</small> | 花まつり結びの神のはかりごと <small>花まつりとは違って夜桜は艶っぽくなりますよね。</small> | パパよりも好きな子二人蝌蚪に足 <small>愛するみどりごをオタマジャクンに喩える諧謔がなんともいえない。視野が広がりましたね。日常に題材を求めて好印象です。</small> | 春満月粧ひ替えて迫り来る <small>愛するみどりごをオタマジャクンに喩える諧謔がなんともいえない。視野が広がりましたね。日常に題材を求めて好印象です。</small> | 鶯や畦で頬張る塩むすび <small>野良仕事の合間の一休み、のどかな春を感じる句です。鶯の音が、めぐる季節に再び働けることを祝福しているようで、おにぎりはきつと塩気強めでしょうね。</small> | 海坂藩探すみちのく花の冷え <small>わたしも好きです、たずねてみたい。</small> | 山笑ふ蛸壺並ぶ海の村 <small>空と山と潮風、春の優しさ。瀬戸の小島の波止の景がみえる。青葉若葉の山と鄙びた漁村の対比。景が浮かび上がってきます。山の緑色、海の青色、静かな漁村に鶯の鳴き声が聞こえてきそう。のどかな風景がユーモラス。</small> | ひこばえの威勢に見とれ押すチャイム <small>信号機メロディー流れ花吹雪</small> | 悲しみが痛みとなるや木蓮忌 <small>内田百閒の忌日を季語にした所に頭が下がる。上五中七は全て読み手の鑑賞に任せるのだろう。</small> | 君の眼に嘘と出てをり四月馬鹿 <small>ウソの下手な人、お互いの笑み。恋人同士でしようか。微笑ましい光景です。ね。とても仲の良いふたりであることが感じられる句です。滑稽味に詠まれてうふふとなる四月馬鹿の句である。今日は騙されてあげる。嘘を見抜いてしまおう君の瞳の表現が上手い。</small> | 春驟雨供香の煙纏わりて <small>三雲</small> | 穀雨の日生まれし吾は土に生き <small>そういう生き方は素晴らしい。作者の地道に生きてきた自負、これからも地道生きていこうという強い意志が伝わってくる。個人的な感慨に共感を覚える。</small> | |
| 光雲 2 | 幸子 | 衛 | 青木鶴城 | 本橋稀香 | 池田珪子 | 荒一葉 | 河野凡士 | ことは | 福田洋 | 森佳月 | 新井のり子 | 西村青夏 | 三雲 | 古賀由美子 |

| 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 |
|---|---|--|--------------------|----------------|---|--|---------------|---|--------------|-------------|---|--------------|--|---|
| 霜里 | 允孝 | 小麦 | | | ひろしま マスマ | 一葉青 夏一し 朝香鶴 | | 文月佳 しんい 清吉 風子 | | | 吉稀香 | | 史子六弦 | 修俳翁 |
| 花びらの額に貼りし春地蔵 お地藏様の柔和なお顔に花びら一つ、心とみまします。 | 散る花を浴び子供らのおにごっこ 無邪気に遊んでいる子どもたちに、花びらを惜しみなく落花させ春を惜しむかのようにです。 | 花飛ばし山から緑が攻めてくる 新緑になって行く勢い・速さが感じられて良い。 | 桜桃（さくらもも）知らぬ所で花を付け | D51や花咲く街が小さくなり | まだ訛りぬけぬ報告新社員 新入社員が張り切つて出社。自分では標準語で話しているつもりだが、故郷の訛はそう簡単には抜けない。微笑ましい句。 | 少年の引き絞る弓若葉風 少年の緊張感に季語が効果的。若さがいつぱい。上五・中七に季語がよくあつてゐる。若葉風が少年の緊張感をきわだたせた。 | 花金のカップルあまた花月夜 | 象の耳に内緒話の紋白蝶 メルヘンの世界。メルヘンですね。童話が生まれそうな描写に共感。象と紋白蝶の動きの対比が印象的。大小の取り合わせ句。季節感が出ている。 | 戌の日や母娘で参る春日傘 | 原発の被災の街に花見客 | 揺れ止まぬあまたの飛花や蜘蛛の網 情景の動きが映像として鮮明に表現されている。蜘蛛の巣に引つ掛つた桜の花びらを美しく表現されている。 | 風炎や吾子に帽子と水筒と | 虚空から青の滴や藤の花 満開時の空から地面に降り注ぐ藤の花は圧巻です。藤の花の描写が見事です。 | 緑さす宮居の奥処笈鳴る これぞ日本の美。句建て、措辞、内容どれをとつても俳句らしい詠みぶりです。 |
| 石関六弦 | 龍野ひろし | 霜里 | 川口聡美 | 立野音思 | 俳翁 | 後藤允孝 | 反町修 | 丸山マスマ | 新曆文 | 後記朝香 | みづる | かげろう | 秋谷風舎 | しんい |

| 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 |
|---------------|-----------------|----------------|--|---|---|---|--|----------------|--|-------------|--------------|---------------|--|---|
| | | 一葉 | 風舎 しーしー | 珪子 風舎 きいち | 美枝子 六弦 | | 道を | 佳月 | しんい | | 青夏 | 洋 | きいち 風子 | 山菜 朝香 鶴城 道を |
| 春光新たなスーツで風をきる | ひとり居て鳴らない電話四月馬鹿 | 美術館のチケツト予約春惜しむ | わたくしの息を閉じ込め石鹼玉 <small>この春のうちに、どうしても見たいチケツトの予約に惜春感がある。</small> | ブルースを踊りませんかりラの花 <small>お母さんが子供に石鹼玉を吹いたのだらう。作者の細やかな愛情が伝わってくる。中七が好き。</small> | 姉さまとあとさきとなり蕨狩 <small>お相手はリラの花の様に可憐な方だったのでしょう。「花」は、リラの花ではなく、愛している女性を指しているのだらう。調子がよく、艶やかな景が伝わってくる。ブルースは初心者でも踊れる、リラの花の言葉は友情、パーティーで見付けた貴女と友達になりたいと言うことですね。</small> | 新社員駆込む列車二番線 <small>笑い声が聞こえてきそう。春らしい平和で長閑な句ですね。</small> | 灯台が見下ろしている磯遊び <small>灯台からの視点が良いと思います。</small> | クラス会ひとり欠けたる花見船 | 初めての花舗へおつかい豆の花 <small>季語が良かった、可愛い幼児の様子が目に浮かぶ。</small> | 馥郁と老梅香り家古りぬ | 遅き春機能不全の地球かな | たんぽぽや軽くてきつい鉄兜 | 朧夜をのつぺらぼうに取り巻かれ <small>朧とは薄く雲るさま、のつぺらぼうとは言い得て妙、面白い。朧夜の幻想性を表現した良句。</small> | 花の名を一つ覚えて春惜しむ <small>なかなか素敵な春の惜しみ方です。来年もこの花に会えるようにと惜春の思いに共感。来年はもつともつと名前を覚えてたいですね。俳句のお陰ですね。</small> |
| 三雲 | 山中いちい | 野田静香 | 小林京子 | 染谷風子 | ほのる | 村杉清吉 | しーしー | 渋谷きいち | 森美枝子 | 倉田詩子 | 日高道を | 網野月を | 森下山菜 | 木村小麦 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------------|---|----------------|---|--------------|--|------------------|---|--|--|--|----------------|---|--------------|------------------------------|
| 60 | 59 | 58 | 57 | 56 | 55 | 54 | 53 | 52 | 51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月 |
| | | ことは かげろう | | 暦文 | | 凡士 珪子 允孝 | 光雲2 いちい 稀香 | 小麦 由美子 道を | 青夏 ひろし マスミ | かげろう | | | 珪子 鶴城 | | |
| 雁帰るエール奏でしバラライカ | 新緑裡スイッチバック繰り返し | 春眠の仏を守る仁王像 <small>仏の仁王像の表情の対比が絶妙に面白い。春眠と仏像と、静かで穏やかな空気を感ぜられました。仁王像も眠気と戦いながら仏を守っている。</small> | 寝坊助の子を送り出す巣立かな | のどけしや露天湯の婆噂好き <small>女性は噂が好きですね。</small> | 行く春や鏡に残る顔のシミ | 惜春や村に正午のわらべ唄 <small>宝塚はアトム、川西は金時、時報チャイムは工夫を凝らしている。どんなわらべ唄なのか、日本昔話のような世界。平凡であつた今年の春が、何事もなかつた今日一日が、無事に過ぎて行く。田舎の長閑な雰囲気が出ています。私の近辺の町でもそのような電子音楽が有線されていきました。</small> | 大江逝き沈黙考かたつむり | 春愁やペットボトルの中の海 <small>かたつむり何を思うや・・・私はヒロシマ・ノートを讀んだあの日进行い出します。カタツムリの措辞がびつたり。江氏の物静かな語り口を思い出しました。</small> | 競漕のオールが掴む瀬田の水 <small>コロナ禍で外出出来ず、ペットボトルを見つめて海を感じている物憂い様子が良い。ポエム。素直な情景が好きです。「ペットボトルの中の海」の措辞が良いです。</small> | 行く春やめくるは古き時刻表 <small>レガツタの季節、大学対抗なのか、舞台は琵琶湖の瀬田川。勝つことも勿論大事だが、川風に吹かれて気分も爽快であろう。「オールが掴む」が良い。</small> | にんまりと葦雑炊に今日終る <small>どのくらい古い時刻表なのか、旅行に行けたのか行けなかつたのか、いろんな想像を掻き立てられる。</small> | 春の土つけトラクター戻り来し | 待ち人のぱつと明るき春コート <small>待ち人と逢つた時の喜びが素直に表現されている。春の日のビビッドな気持ちがあふれています。</small> | 16分音符で跳ねる花の鈴 | |
| 光雲 2 | しんい | 衛 | 幸子 | 本橋稀香 | 青木鶴城 | 荒一葉 | 池田珪子 | ことは | 河野凡士 | 森佳月 | 福田洋 | 西村青夏 | 新井のり子 | 古賀由美子 | |

| 75 | 74 | 73 | 72 | 71 | 70 | 69 | 68 | 67 | 66 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|-----------------|---|--|----------------|--|---------------|-------------|--|---|---|---------------|---|---------------|---------------|------------------|
| | しんい ことは | 一葉 俳爺 みづる | | 三雲 史子 | | | 修 | 京子 ほのる | 音思 | みづる | 史子 朝香 六弦 京子 | | 佳月 | |
| 行く春やビルを見下ろす仁王立ち | お好み焼き上手く返せて昭和の日 <small>具で山盛りとなつた生地を上手く返せた時の安堵感、季語もいい。さ さやかな喜びと大きな幸せの昭和の日ですね。</small> | 朧の灯ひとつにひとり寮の夜 <small>寮生一人一人への温かい気持ちの灯に滲む。確かに春ならでは寮 の灯である。</small> | 枝垂れては媚び売るとき桜かな | 山間に眠る棚田や初燕 <small>静かな山間の田に訪れた初燕、春の始まりのその前の瞬間のような光 景が素敵です。休田中の棚田と燕の美しい景が浮かぶ。</small> | 甥興味ぱんと開いた梅雨の傘 | 木の芽雨万年堀を猫走る | 医師の声遠のく麻酔灯の朧 <small>麻酔が効き始めた際の手術室の状況をうまく表現。</small> | 切通し抜けて展ぐる春日傘 <small>中七の時間の経過が、春日傘を一層明るく見せる。「切通し抜けて」 が冬から春へ抜けたみたいですね。</small> | 頬白や雌雄仲よく枝移り <small>良く見かける風景をそのまま表現できているところが良いと思いま す。</small> | パレットのピンク忙しし芝桜 | 蒲公英の絮ひと吹きし退職す <small>退職の日の静かな「寂しさと覚悟」が表現されている。蒲公英の絮の 行方と退職後の思いが重なって共感。色々な思いの詰まったひと吹き ですね。絮はひと吹きで飛び去った、サラリーマンの悲哀か決意か。</small> | 鐘を撞く落花その行方知れず | 花吹雪ひとひらを背に猫戻る | 陽炎や香具師の口上のリズムミカル |
| 石関六弦 | 木村小妻 | 霜里 | 龍野ひろし | 立野音思 | 川口聡美 | 後藤允孝 | 俳爺 | 丸山マスマ | 反町修 | 後記朝香 | 新曆文 | 秋谷風舎 | みづる | かげろう |

| | | 88 | 87 | 86 | 85 | 84 | 83 | 82 | 81 | 80 | 79 | 78 | 77 | 76 | 水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年三月 |
|--|--|---------------|--------------------------------|-----------------------------------|-----------------|-------------|-----------------------|---|--|--------------|---------------|--------------|---|-------------|------------------------------|
| | | | しーしー | 光雲2 | | | | 三雲 凡士 月を | ことは かげろう 由美子 | | | | 小麦 | | |
| | | シクラメン嵌め殺しある南窓 | 振り返るフレアスカートスイートピー 明るさが溢れてる。 | 駄菓子屋に夢買いに行く春の籤 懐かしき昭和の一句でしょうか。 | ぢんちやうげ音する雨を踏み帰る | 其角や助六張りの長煙管 | 春休みコンクリ基礎に立金花（りゅうきんか） | 灯台の螺旋階段春の雷 灯台と雷、螺旋という言葉の重なりにならざわとした不安と浮遊感を覚えて面白いです。座五の季語「春の雷」は遠雷でしょうか。 | 約束の銀座和光へ春日傘 いそいそとお出かけになる姿がまことにお幸せそうです。銀座のど真ん中へ、春日傘の下でいつたいどんなおしやれをしているのか、読み手をうきうきとさせる。銀座和光、なつかしい。お洒落な句ですね。 | 朧夜の綱に掴まる野天風呂 | 晩春を味はひたくて津軽まで | さ枝まで老梅凜と香り立つ | たましひの離脱成功春落葉 たましいの離脱成功という大げさな表現が面白い。 | 天皇も夫婦相和し植樹祭 | |
| | | 小林京子 | 山中いちい | 野田静香 | ほのる | 染谷風子 | しーしー | 村杉清吉 | 森美枝子 | 渋谷きいち | 日高道を | 倉田詩子 | 森下山菜 | 網野月を | |